

ふかまちのまど

第一九〇号 一〇年三月一日
発行元 深町町内会連合会
連絡先 四六三三八八二

町内会連合会活動報告

河川清掃 (二月二一日)

町内会連合会会長 中村純

寒い日が続いていましたが、当日(二月二一日)は快晴。一週間位前から雨が降ったり、やんだり川の水が増水して危険な為、深い所には入らない様お願いして、藤井川・高平川を一齐に草刈り、ゴミの收拾等清掃を実施しました。

町内の皆様、ご協力により、足元の悪いなか怪我もなく無事作業が終了し、きれいな河川となり、本当に有り難うございました。



深小だより

『霜を履みて堅氷至る』

深小学校長 山本 恵司

『易経』の坤卦に次のような言葉があります。『易経』とは、五経の一つ)

【履霜堅氷至】
これは、霜柱をふむ季節となる厳しい冬がやってくるという意味です。霜柱とは、雪の積もる前に、霜が降り始めるので、霜柱が降り始めるのは、雪の積もる前です。

①物事は、必ず小さな兆しを置かなくてはなりません。兆しを置かなくては、大きな事にはなりません。兆しを置かなくては、大きな事にはなりません。兆しを置かなくては、大きな事にはなりません。

②厳寒のシーズンも、一挙にやってくるのではなく、徐々にやってくるので、準備を怠らなす。準備を怠らなす。準備を怠らなす。

三月に入り、学校(児童)は、慌ただしく、毎日を過ごしています。後、六年生は卒業に向けて、準備を怠らなす。準備を怠らなす。準備を怠らなす。

三月に入り、学校(児童)は、慌ただしく、毎日を過ごしています。後、六年生は卒業に向けて、準備を怠らなす。準備を怠らなす。準備を怠らなす。

歩く会にご参加を

健康づくり推進員 高崎修

八田原ダム周遊

月日 三月十八日(木)

行程

八時 上組公民館出発(車)

九時 周遊開始(徒歩)

(夢吊橋提体下部、保養施設跡等)

十四時 上組帰着予定

注 弁当を持参下さい。



中学生へむけての決意

一山周矢

ぼくは、今までサッカーをやっていたので、中学生になってもこのこととサッカーをうまく出来るように集中して練習して県大会で優勝したいです。

川上真基
ぼくは、国語の授業が苦手です。だから、中学生になったら漢字をしっかり覚えて、こくふくしたいです。

河原淳太
ぼくは、中学生になったら、パソコンクラブに入って、インターネットで、世界中の事をいろいろ調べてみたいです。元気で休まないようにがんばって中学校に通います。

岸 鈴歩
楽しい三年間でした。勉強もバレーもがんばって、勉強もできる中学生になりました。

高橋茉莉花
中学校の勉強は、難しいです。ピードが速いというのを聞いて、たのび、毎日欠かさず勉強して、みんなについていけるようがんばりたいです。

直井紗実
国語が苦手なので、読書を毎日するように心がけます。そして、国語が好きになってみたいです。運動部に入って、練習を、かかさず行くようにします。そして、友達をたくさんつくって楽しい中学生生活にしたいです。

中川安奈
私は、中学生になったら、小学校で苦手な算数を得意にできるように努力したいです。そして、新しい友達もたくさんつくって楽しい三年間にしたいです。

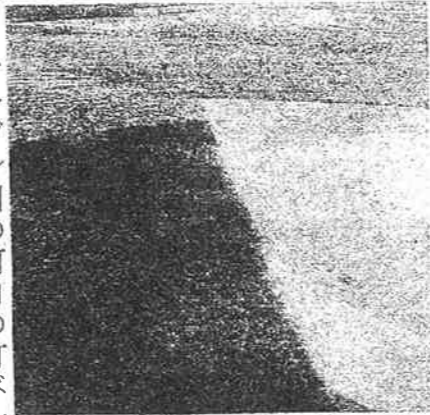
西永徳幸
ぼくは、中学生になったら、休みの時間などに、みんなと話をして、クラブなんかで友達を増やしたいです。

福島 桜
中学生になると宿題が小学生の時以上に増えてきます。すべてをこなすには根気が必要なので、自分から進んで自習学習をしていきたいです。

「ふかまちのまど」 ホームページのアドレスは
<http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html>

森とともに生きる①

中組 安藤 志保



右側は木が伐採された跡。直線的なラインが痛々しい

二〇〇九年六月、日本から四ノ谷川に、大規模な森林伐採が行われ、森林の生態系が壊滅的なダメージを受けた。森林は、地球の肺と呼ばれ、酸素を生み出し、二酸化炭素を吸収する。森林がなくなると、地球温暖化が進み、自然環境が壊滅的なダメージを受ける。森林を守ることは、地球を守ることに等しい。

深小の子どもは、午後四時頃、下校します。近づく、遠くで、みんなで見守りましよう。あいさつ、声かけをしましよう。

深町子どもを守る会

子どもをみんなで守りましよう

深小の子どもは、午後四時頃、下校します。近づく、遠くで、みんなで見守りましよう。あいさつ、声かけをしましよう。

松本陽香
私は勉強とクラブを両立したいです。英語では、発音にも気を付けて話せるようになりたいです。

謹んでお悔やみ申し上げます

西本 砂枝 様 七二歳 (上組 西側講) 二月二四日

深町各種団体三月行事予定

小学校・幼稚園	誕生会	三月五日
児童会	体位測定	三月七日
読書会	読み聞かせの会	三月九日
学区児童会	PTA役員会	三月十一日
卒業式	卒業式	三月十三日
卒業式	卒業式	三月十五日
卒業式	卒業式	三月十七日
卒業式	卒業式	三月十九日
卒業式	卒業式	三月二十一日
卒業式	卒業式	三月二十三日
卒業式	卒業式	三月二十五日
卒業式	卒業式	三月二十七日
卒業式	卒業式	三月二十九日
卒業式	卒業式	三月三十一日

三原観光写真コンテスト

銀賞 和田 知久さん (下組)

受賞おめでとうございます。展示場所 市民ギャラリー 展示期間 三月二〇～二八日

展望席

昭和三十年代、中学の同級生の何人かは京阪神方面へ集団就職をしました。まだまだ幼い子供が親と別れて遠く離れた都会への就職。当時は大阪までは急行列車(汽車)でも相当な時間を要し、電話も一般家庭にはなく、親子がお互いの声を聞くことも会うことも容易ではなかったことでしょう。子供を思う親心、親を思う子供心、眠れぬ夜も何度かあったことでしょう。

自然界でも草木の美しい花は、やがて散り実となります。その実も親の草木から別れて新たな命を育むこととなります。小鳥も飛べるようになります。巣立ちをして親鳥と別れます。ひとつ成熟するごとに別れはやってきます。別れることはつらいことですが、別れることにより成長していくこととなります。時にはいやな人と別れて身も心も晴れ晴れすることもあります。が、別れることもまた大事です。別れの後には、また新しい出会いと人生が待っています。冬に別れを告げ、心ときめく春がやってきました。明るく楽しい未来に向けて歩きましょう。

かけがえのない時間

伊藤 光 佑

自分が仲間と過ごした三年間は自分にとってとても充実した時間となった。
一年生。四月七日入学式。僕たちの学校生活が始まった。自分は深小学校から来たので多数のクラスは初めてだった。だから、すごく緊張していた。友達ができるかな、いじめられないかなと不安でいっぱいだったとき、周りの同級生たちが声をかけてくれた。そのとき友達という大切なものができた。
六月福山少年自然の家へ合宿へ行った。それまでは自分のクラスの人とし話さなかったのに、キャンプファイヤーやうどん作りなどを通してさらに友達が増えた。



二年生の十月、待ちに待った修学旅行。阿蘇山や長崎市内を班で回ったりスペースワールドに行ったりと、とても楽しい時間をすごした。
三年生。中学校生活最後の体育大会。三年は最高学年なので一・二年生の見本となるように、精一杯がんばった。

最後のマスゲームでの四段タワーでは一人ひとりが声を掛け合ったので、一回で成功させることができました。文化祭では最初は見るだけだったけれど、吹奏楽の演奏の時にはみんな盛り上がり、全校合唱や学年合唱では練習時間が例年より少ないという中で、一人ひとりが声を出して、文化祭の最後にふさわしい歌が歌えたと思う。
自分はこの三年間で友達というかけがえのないものと出会い、充実した時間を送れたと思う。できればもう一年この仲間と一緒に学校生活を送れたらと思う。

仲間と過ごした日々

小川 由 祐

今の自分がいるのは、やっぱり仲間がいたからだと日々の生活で思う。

中学校入りたての頃、大勢のクラスに慣れていなかったとき、周りの同級生が自分に話しかけてくれた。その瞬間から仲間というひとつの大切なものができた。
そして、大人になっても必要な人間ができた。一年生の春、合宿があった。たくさんの友達と一緒にキャンプファイヤーやうどんを作ったりして、楽しい時間をすごした。
二年生の秋、一番の思い出となった修学旅行が来た。二泊三日とあってとてもわくわくしていた。班のみんなと目的の地までたどり着いたり、自然の雄大さを心に刻んだり、そして、スペースワールドで楽しく過ごしたことが思い出される。

三年生になり、進路も気にかける頃、最後の体育大会がまわっていた。四段タワーが一番上とあって少し怖



かったが、仲間が支えてくれたり、一言を発してくれた時、仲間を信じ四段タワーを完成できた。そのときのみんなの拍手はすごく温かった。
こうしてみても思い出されるたくさんの思い出は自分の一生の宝物になる。

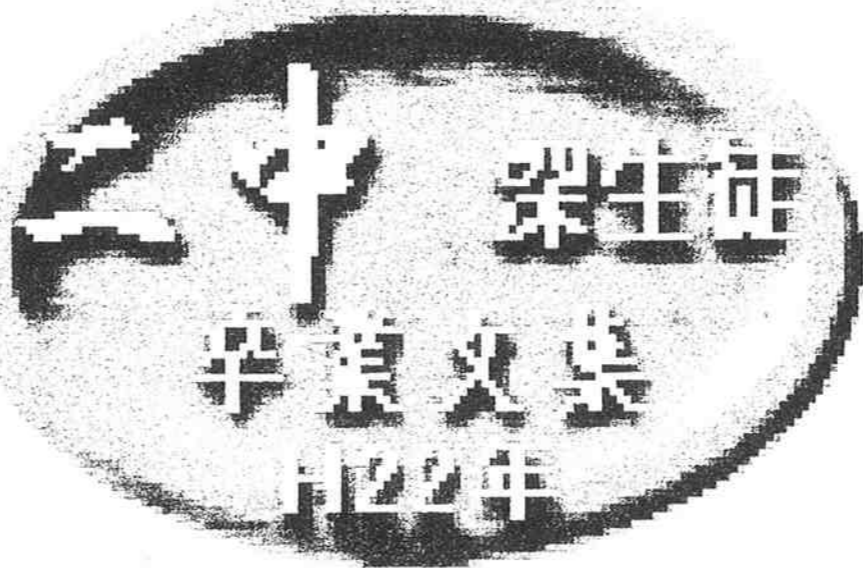
最後に、仲間とともにこれからも歩み続けていきたいと思つし、すばらしい未来を築きあげていきたい。本当の最後、仲間にありがとう。

涙のない引退

前田 孝 尚

5秒前 3, 2, 1, 「パーン」とスタートの音が鳴る。
僕を告めた53人が同時に走り出す。これで終わるんだな、と。そんな事を思いながら三十五番手くらいについて走った。中国中学校駅伝、やつのこと出場する事ができた県駅伝だ。去年は惜しくも十一位で、あと一步のところが入賞できなかった。今年こそとメンバー全員が思いがある特別な駅伝だった。その1区を任せられたこともあって、喜びの気持ちと不安な気持ちでいっぱいだった。昨年の先輩と同じ区間を走ることができる。しかし、良い順位で走れるだろうか。そんな気持ちが頭の中をぐるぐる回る。

そんな時、陸上の友達が「楽しもうね」と声をかけてくれた。その瞬間不安が消えて、心から走ることを楽しもうと思えた。
今、ラストの上り坂を走っている。とても苦しい。だが楽しい。中継地点が見えた。「森尾」と叫ぶ。腹の底から出した声だった。森尾君に棒を渡す。その瞬間、苦しさが増した。二十二位だった。だが不思議に楽しいと心から思えた。最高の走りだった。楽しかったという言葉しか浮かばない。ゴール地点に戻ってゴールのときを待った。結果は二十二位、十位入賞には程遠かった。しかし涙は出なかった。悔いが無かったから。
これからも、あのような最高の走りができるように、これからも走り続けていきたい。

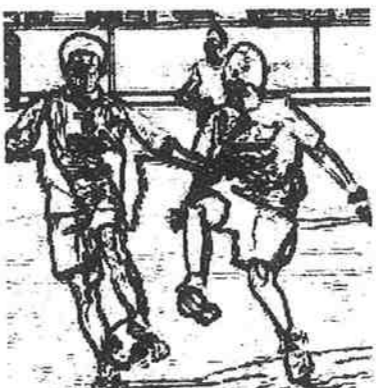


あとがき

村 井 寛 太

このクラスですごいやるのもあります。ぼくは、卒業までの間一日一日が思い出になるようにすごしてきました。

いままでの三年間、いろんなことがあったが、一番楽しかったのは、二年一組のときの体育でした。サッカー。すごく平凡だと思われるかもしれないけど、あときのサッカーはおもしろかった。
いつも試合は均衡する。5点とって優勝かと思えば、5点取り返される。3点取られ、追いついたかと思えば点を取られ、それをさらに取り返す。いつもこのような展開ばかりで、飽きることはなく僕は体育の時間を楽しんでいた。



一勝一敗四引き分けで最後のサッカーの時間を迎えた。僕は勝つて終わりたいと思った。たぶんみんなもそう思ったと思う。けれど結果は、引き分け。でも楽しかったのがよかった。
平凡なことでもこんなに楽しいと思える僕は幸せか、さうなり。

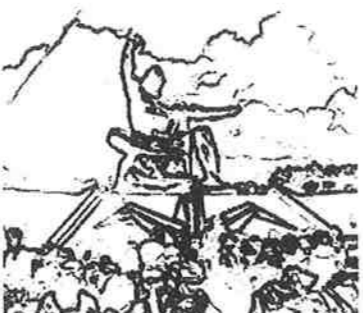
中学校生活 報告書

斎 藤 達 也

僕の中学校生活は、三年間、とても充実しています。

一年生。小学校のときとは違い、四十人近い人数で授業はとても新鮮味を感じ、授業内容も難しくなつて、慣れるまで大変でした。体育大会や文化祭でも今までとは違う内容で驚きましたが、とても楽しかったです。

二年生。一番楽しみにしていた修学旅行に行きました。初日は長崎で平和について学びました。市内のいろいろな所に行きました。



二日目は阿蘇山に行きました。三日目はスペースワールドに行きました。いろいろあったけど修学旅行が二中で一番の思い出です。

三年生。最後の一年間は、行事に今まで以上に力が入りました。

特に体育大会では最後ということもあり、今までで一番がんばりました。なかでも四段タワーは練習の時はあまり成功しませんでした。休憩時間に集まって練習を重ね、当日は一回で成功させることができました。ソーランでは慣れない体の動きで筋肉痛になりました。練習し、他の種目も3年間が一番がんばりました。

そして、受験。将来に関るので今までのテストの中で、最も気合が入りました。
長いよつで短く思い返すよつとあつたよつ間だった中学校生活。3年間学んだことを糧とし、これから一生懸命がんばっていきなさいと思えます。

